

平成30年度 福島県
「大学生の力を活用した集落復興支援事業」
田村市船引町瀬川地区
実証実験報告

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム

エゴマ油 1,200円

瀬川小学校
3・4年生が育てた
こめにゃくいも

瀬川小学校
3・4年生が育てた
こんにゃくいも

目次

1. はじめに
2. 田村市船引町瀬川地区の概要
3. 瀬川地区の現状と問題点・取り組むべき課題
4. 今年度の実証実験と評価
5. 今年度実施した実態調査と課題設定
6. 次年度以降に向けた企画提案

はじめに

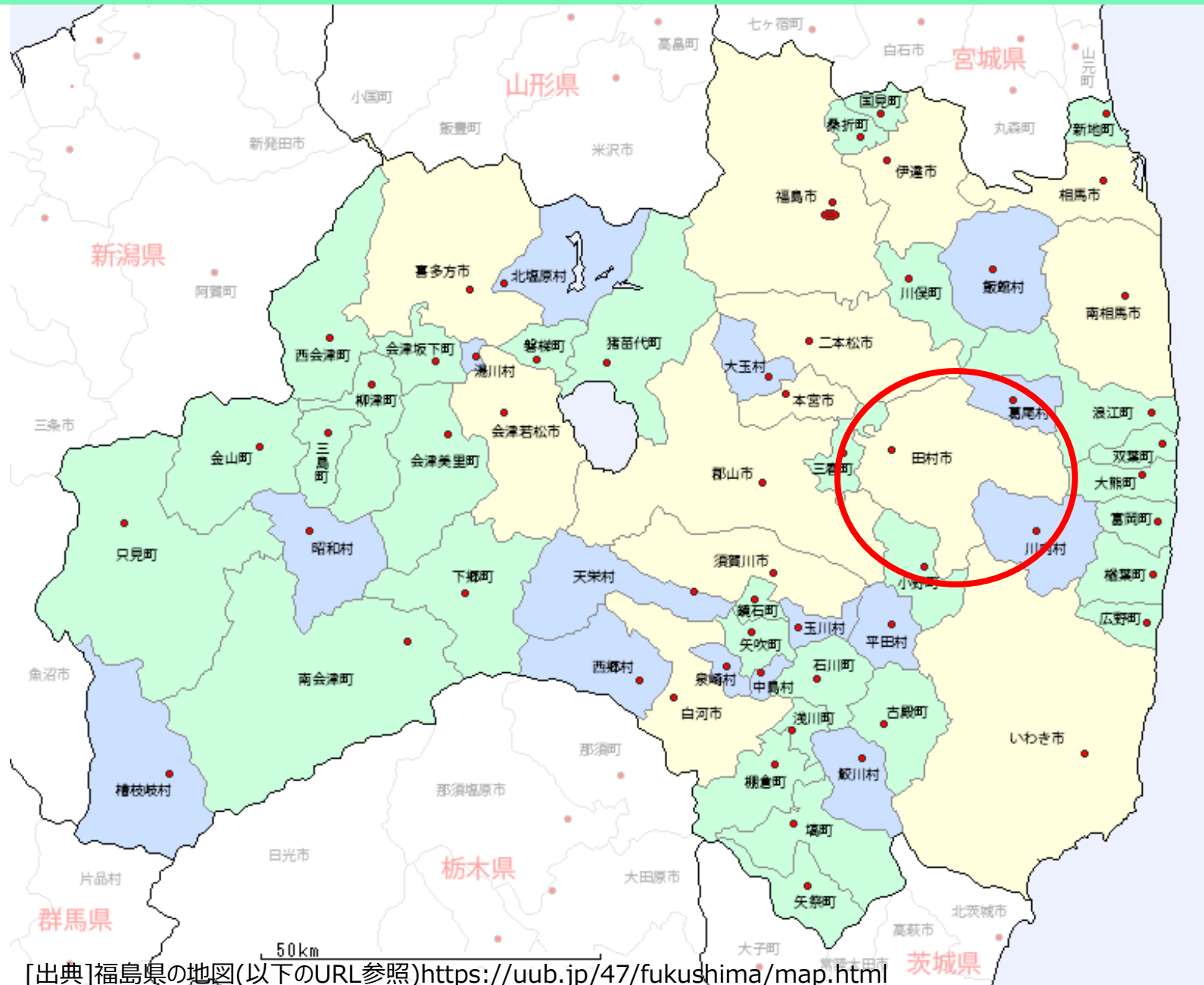
2018年度チームメンバー一覧

学科	学年	氏名
国際関係法	4	池井遥香
英語	3	石原 蓮
法律	3	大嶺 輝
法律	3	広沢 駿
法律	3	前田泰良
国際関係法	3	坂本拓海
国際環境経済	2	溝井彩乃
総合政策	2	荻野佑貴
総合政策	2	吉田智晶
国際環境経済	1	田波萌々香

日程	活動内容
9月29・30日	「やってみっ会」のそば打ち勉強会への参加、昨年の提案の実証実験(軽トラマルシェとマルシェ木箱のための木工ワークショップ)の打ち合わせ、瀬川地区のフィールドワークを実施
11月10・11日	瀬川住民センターで開催された「第1回新そば収穫祭&軽トラマルシェ」に参加、木工ワークショップとコミュニティカフェを同時に開催
6月、12月	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2018”の期間中に、大竹チーム、大坪チームと合同で福島県集落復興支援物産展を開催

2. 田村市船引町瀬川地区の概要

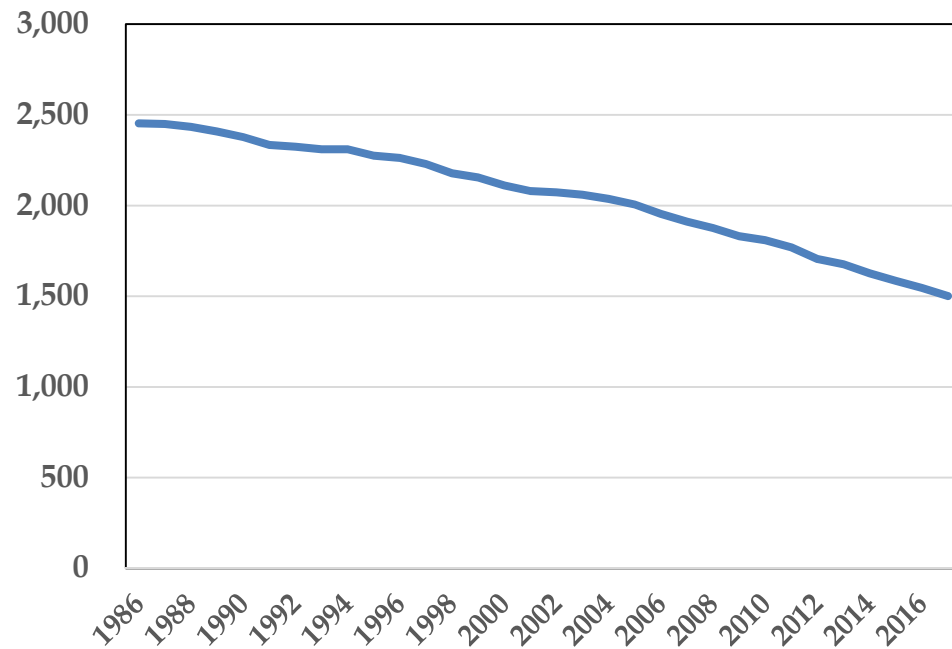
田村市の位置



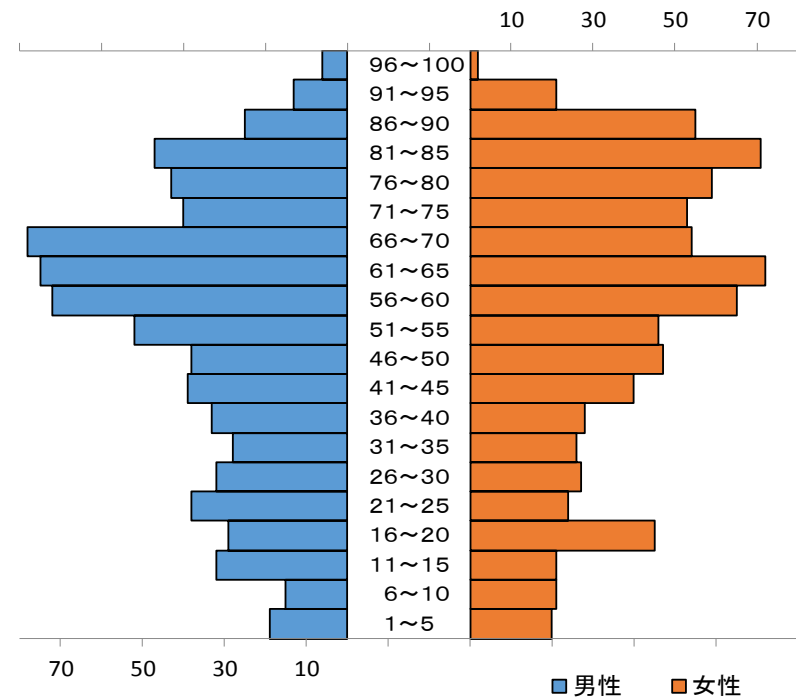
3. 瀬川地区の現状と問題点・取り組むべき 課題

3.1. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化

瀬川地区の人口の推移



瀬川地区の人口ピラミッド



[出典]「瀬川の人口及び世帯数の推移」『住民基本台帳』より作成。

3.3. 今年度取り組むべき課題

[瀬川地区の抱える問題]

子育てしにくく、日常生活が不便

収入源がない。

外部の人が瀬川地区を訪れる理由がない。

耕作放棄地、空き家が増えている。

[取り組むべき課題]

(1)地域住民の交流する場を増やし、日常生活に対するサポート

(2)収入を発生させる仕組みをつくる。

(3)外部から注目してもらい、立ち寄ってもらい、交流人口を増す。

「住んでよし、訪れてよし」

「住み続けたい」、「退職後は戻りたい」、「移り住みたい」



[達成すべき目標]

地域コミュニティを活性化させて、「瀬川プライド」を醸成

4. 今年度の実証実験と評価

第1回「新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ」開催

[日時]11月11日(日)10:00～14:00

[場所]瀬川住民センター駐車場・屋内

駐車場:軽トラ10台参加。荷台に置いた傾斜台にマルシェ木箱を並べ、野菜や工芸品を販売する軽トラマルシェを開催

屋内:打ち立ての新そばを、注文を受けてから茹でて、汁を張って提供。喫茶セガワではコーヒー・ソフトドリンク、クッキーを提供



4.1. 「新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ」準備と運営



4.2. 「マルシェ木箱を製作する木工ワークショップ」開催



4.3. コミュニティカフェ「喫茶セガワ」の開設



4.4. 獨協大学・福島県集落復興支援物産展開催

[実施内容]

- ・獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo2018”にて、夏季(6月25日～30日)・冬季(12月10日～15日)に福島県農産物物産展を開催、6月25日、12月10,11,13,15日
- ・目的：瀬川のことを多くの方々に知ってもらい、福島県産の農産物の安全安心をPRする。
- ・販売品：瀬川産の野菜と特産品のエゴマ油
- ・チームの活動報告をまとめた壁新聞を立て看板に貼ってチーム活動を紹介
- ・大学に隣接する団地「コンフォール松原」に1000枚を超えるチラシをポスティング

[評価]

- 多くの来場者に来ていただいて、農産物は完売
- △物産展は一時的な効果しかないのではないかと。
- 準備した壁新聞が文字が多すぎて読みづらく、読んでもらえていなかった。



5. 今年度実施した実態調査と課題設定

5.1. 瀬川地区4行政区の神社と伝統芸能



「大倉の太々神楽」が奉納される大倉神社(上)と境内の神楽殿(下)



「新館の太々神楽」が奉納される新館神社



「石沢の三匹獅子舞」が奉納される鹿島・熊野神社



同じ場所に立つ古室神社(左)と王子神社(中央)と「門鹿の太々神楽」が奉納される神楽殿(右)

5.2. 移ヶ岳の自然資源

- ・移ヶ岳は田村市船引町石沢に位置する標高994mの山
- ・9月30日、車で瑞峰平(駐車場)まで上がって視察。あいにくの天候で眺望は悪い。
- ・たくさんの沢があり、豊富な水が流れている。
- ・かつては、小学校の遠足で、瀬川小学校から山頂まで歩いた。
- ・山頂付近は地震の影響で崩れたため、立ち入れなくなっている。
- ・現在は登山道はほとんど使われておらず手入れがされていない。
- ・山の麓には、**もりの案内人、樽井俊二氏**が移ヶ岳の自然資源を伝える「里山林・自然塾」を開いている。



5.3. エゴマ農家の現状とエゴマの今後の可能性

- 9月29日、橋本公一氏のエゴマ畑を視察
- 立派なエゴマ畑が一面に広がっていた。白いエゴマと黒いエゴマ
- 栽培には手間が掛からないが、収穫時だけは短期間に刈り取る必要がある。収穫が遅れると、実が落ちてしまう。
- エゴマの収穫は、機械刈だと傷がついて劣化(酸化)してしまうため、手作業で行わなければならない。
- 田村市では、震災によりいったんは生産が減少したものの、その後急速に回復。
- ダイエット効果・ガン予防効果があるエゴマは、健康食品として再ブームが期待できる。



6. 次年度以降に向けた企画提案

6.1. 「新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ」開催に関する提案



6.2. 集落復興支援物産展開催に関する新たな提案



6.3.瀬川住民センター裏の空き地(市の所有地)と隣接する空き家の有効活用に関する提案



瀬川住民センターの西隣には空き家があり、裏の北側には空き地が広がっている。

- ・**空き家**⇒ やってみっ会の事務所や、手打ちそば屋として使用できるかも



定期的なイベントの開催が可能に

- ・**空き地**⇒ 整備をすれば公園として使用することができるかも



子供の遊び場、フラワーパークに



6.4. エゴマの収穫期の援農ボランティアの提案



エゴマの収穫期には多くの手間がかかる一方で、人手が不足



- 大学生が援農ボランティアとしてエゴマの収穫のお手伝いをする。
 - 地域の方々と大学生との交流にもなる。
- エゴマについて詳しく学んでエゴマのマーケティングを考える機会に。

6.5. 大学もしくは草加市における「そば打ち同好会」の結成



- 9月29日にやってみっ会のそば打ち勉強会に、石原、前田、大嶺の男子3人が参加し、はじめてのそば打ちを経験
- 自分で打ったそばを堪能して、そば打ちの魅力を感じた。



- 大学、もしくは草加市に「そば打ち同好会」を設立して、学生のみならず、教職員も巻き込んで、そば打ち人口を増やす。



- 瀬川地区だけでなく、福島県の他の地域のそば粉に新たな需要を創出
- そば打ちの指導にやってみっ会から講師派遣することで、地元との交流も
- そばの作付けからそば打ちまで、そば全工程を行うことで収入源としても有望に。

6.6 伝統芸能活性化のための提案

- ・瀬川地区の石沢、新館、大倉、門鹿にはそれぞれ神社があって、神社に奉納される伝統芸能がある。地元では保存会の皆さんが、神楽を舞う小学生を指導しているが、小学生も少なくなって、維持が課題に。

貴重な地域資源

観光資源として活用すべき！

- ・秋の例大祭に参加して、私たち伝統芸能についてよく知る。
- ・秋の例大祭で、全地区の伝統芸能を観て回るツアーを企画
- ・ポスターを制作し、ポスターを駅やお店に貼らせて、もらう。

「門鹿の太々神楽」

6.7. 移ヶ岳の小水力発電の可能性調査 とエコツアーに関する提案



【小水力発電の開発】

- ・移ヶ岳には沢がたくさんある。
- ・自然環境への負荷が少なく、少ない費用で行うことができる小水力発電の可能性を探る。

【エコツアーの開発】

- ・地元の皆さんに協力していただいて、起伏に富む瀬川地区の魅力を堪能できるエコツアーを実施する。
- ・ツアーに参加してもらうことで、瀬川の魅力を感じてもらう。
- ・小学生も登れる移ヶ岳のハイキングコースを復活させる。

6.8. 田村市全域、浜通り、そして福島県全域との広域連携を視野に入れた展望

- 「第1回 新そば収穫祭 & 軽トラマルシェ」に、田村市町の本田仁一市長が来場
- 「タウンシップレース福島県@田村市」が開催され、選手も来場
- 軽トラマルシェで使うマルシェ木箱を田村市内の杉材を用いて、地元の皆さんと木工ワークショップで製作



- 田村市全域で、イベントを開催して、広域イベントの中で、瀬川地区を盛り上げるような、新しい提案を考えていきたい。



「住んでよし、訪れてよし」



ご清聴ありがとうございました。

